



Rotary International District 2800

## 山形西ロータリークラブ会報

会長：東海林 健登 幹事：武田 岳彦

## 地区目標

中核的価値観のもと、時流対応の時  
～奉仕の心の醸成と実践するロータリアン～

## クラブテーマ

ロータリーの価値を改めて考え、そして楽しむ

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

◆点鐘：東海林健登 会長

◆ロータリーソング：

◆司会：浦山潔 S.A.A.

◆会場：Zoom (山形グランドホテル)



Yamagata West Rotary

第2933回例会

令和4年1月24日(月)

## 会長あいさつ

東海林 健登 会長



本日は我がクラブ初めての完全ZOOM例会になります。よろしくお願ひします。

今月は職業奉仕月間です。職業奉仕とは、「奉仕を学び 職業を奉仕すること」であります。例会で皆さんが歌っている『4つのテスト』に代

表される、奉仕の理念や倫理観を持って職業を行い、その結果として職業を通じて社会に貢献し、そして奉仕することです。そして、この期間、『4つのテスト』の話をあちらこちらで頂戴することがあります。皆さまにとっては「そんなことわかっている」とおっしゃるでしょうが、今日もその話を重ねてさせていただきたいと思ひます。

この歌は1932年、世界大恐慌の時、シカゴのロータリアンで後に1954年、RI会長をお務めになったハーバート・テイラーさんの発案によるものであります。彼はシカゴに本拠を置くジュエル・テイ株式会社の次期社長の呼び声が高い代表取締役でありましたが、コンチネンタルナショナル銀行の副頭取から、倒産寸前のアルミニウム製品会社を再建してほしいとの依頼を受け、その会社を救うべく、何が原因で倒産寸前までになったかという検討をしていったということであります。

その結果、問題点は社員の人格、信頼性、奉仕の心であることに気づいて、『4つのテスト』を書き上げたそうです。それを4人の部長に読ませたところ、全員自分たちが信じる宗教に合致するだけでなく、会社や個人の生活にも優れた価値を持つものだ、という感想があったそうです。そして経営者たちと従業員らが、この『4つのテスト』の事項を仕事のあらゆる面に生かしていったところ、結果として信頼と好意の雰囲気が顧客らと従業員らとの間に育まれ、業績は次第に好転していったということであります。

『4つのテスト』。「真実かどうか」「みんなに公平か」「好意と友情を深めるか」「みんなのためになるかどうか」これらの言葉は、問いかけただけで答えなどはありません。それは自己評価を促す言葉であります。いつもこれらの言葉を自分自身に問うて仕事をしていきたいものがあります。

## 幹事報告

武田 岳彦 幹事

●本日、山形ローターアクトクラブのアナー・ガリド会長にお越しをいただいておりますので、東海林会長から補助金を贈呈していただきたいと思います。

●当山形西クラブは、県の警戒レベルに合わせた形で例会を運営してまいります。レベル0でしたら通常例会。レベル1の場合はハイブリッドの短縮例会。会場で例会を行なって、お弁当を持ち帰っていただきます。レベル2以上は完全Zoom例会という形で運営させていただきます。本日初めての試みをしております。

Zoom参加の仕方がわからない方は、1月いっぱいメコムさんのほうに対応窓口を準備いたしておりますので、電話相談あるいは直接メコムさんに伺っていただき、スマホを接続していただく形になります。わからない方はメコムさんにご連絡をお願いいたします。

本日、51名の方がZoomで参加をいただいております。半数以上の方にご協力をいただいております。大変ありがたいなと思ひます。参加が少しでも多くなりますように、サポート体制をとっておりますので、何卒ご協力をお願いいたします。

## ごあいさつ

アナー・ガリド 会長



山形ローターアクトクラブ今年度会長のアナー・ガリドと申します。モンゴルのウランバートル市の出身です。皆さま方とは画面越しでの挨拶となってしまいますが、対面でお会いできる日を楽しみにしております。

当クラブは、2019年に設立されたクラブです。会員数は現在11名で、そのうちの7人が外国人です。モンゴル、ベトナム、韓国、中国出身の会員が在籍しており、グローバルなクラブになっております。

ローターアクトの目的は、リーダーシップ、親睦と奉仕活動、機会の提供です。今後の活動の拡大をしていくために会員数の増加が重要となっておりますので、もし皆さまの会社に若手社員がいらっしゃれば、ぜひ山形ローターアクトクラブに入会していただければ幸いです。

まだまだ未熟な私たちローターアクトクラブですが、どうか引き続きご支援・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



## 山形の幕末 若武者・水野三郎右衛門の物語

おさゆ 氏

講談師

講談師おさゆと申します。講談師おさゆと申しまして、皆さん「え？誰？」と。当然でございます。今日はまずは私の自己紹介から入らせていただきたいと思います。私、山形生まれの山形育ち。夫が1人、娘が2人。その2人の娘は今仙台に住んでいますので、現在は夫と2人暮らしでございます。

私と講談の出会いを1つ。講談と出会ったのは2016年、今から6年前でございます。ちょっと仕事が立て込みまして夜更かしをして、「ああ、もう疲れたな」というあれは朝の4時半。もしかしたらご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、NHKで『日本の話芸』という番組をしてるんですね。毎週土曜日の午前4時半、落語を毎週やっているんですけども、月に1回だけ講談の時間がございます。たまたま私、その講談の時間に目が覚めておりまして、仕事をしながら、聞き流すつもりのその講談がいつの間にか聞き流せなくなった。これは面白い。私、結構声が大きくて、周りから「爆音おさゆ」とかね、「うるさいおさゆ」「物を壊すおさゆ」とか「声で物を壊す」なんて言われてましたので、もしかしたらこの話芸、私にピッタリなのかもしれないって思ったんですね。

その時に魅力に取りつかれてまして、そんな私、「これは天職かもしれない」と思い立ち、早速講談師匠を探しました。その師匠、山形にはまずいないんですね。ほとんど関東、関西。その中でたった1人、リモートで勉強をさせてくれるという講談師と出会いました。それが現在の師匠、神田香織真打ち、師匠でございます。その神田香織師匠に付きまして、現在までずっと勉強を重ね研鑽を積んでまいりました。

そして私は講談師になったわけでございますが、皆さま、講談というものをどんなものかご存じでございますか。講談はですね、講談の「講」には歴史という意味がございます。つまり過去の歴史を面白くわかりやすく講ずる、話をするのが講談。話をする人を講釈師、または講談師と申します。「講釈師、見てきたような嘘をつき」などと申しますが、講談師は現代で言うところのニュースやワイドショーの役目も果たしております。また、歴史上の人物やその時代の出来事を皆さまの前で読み上げる伝統芸能の1つでございます。おなじみの時代劇、大岡越前や水戸黄門、忠臣蔵なども実は講談を基にして作られたお話なのでございます。本日の演目、どんな出来事が繰り広げられるのでございましょうか。

さて皆さま、日本の長い歴史の中で戦争が原因でお城や城下町が焼き尽くされた話、あるいは周辺の町や村に火を放たれた話など、聞いたり教わったりしたことってございますよね。ここで問題。日本の歴史上最大の規模で行われた内戦、大々大戦争は何だかご存じですか。これは関ヶ原の戦いではございません。その戦いとは、徳川幕府から明治政府に変わる時の戦、九州・四国から北海道の利尻島にまで及ぶ広大な領地を争う戦い、戊辰戦争なんです。ここからはわが町山形を戦火から守り抜いた若き偉人の物語、

はじまりはじまり。

今から154年前、慶応4年、1868年の出来事でございます。当時の山形城主、水野忠精およびその長男忠弘親子は京都新政府に呼ばれ、半ば囚われの身となり、山形には戻ってこられずにおりました。時の首席家老水野三郎右衛門元宣はこの時弱冠26歳。温厚で落ち着きがあり、大人の風格を備え、山形藩のみんなからは厚い信頼を得ておりました。その三郎右衛門、山形城主が不在の中、山形藩の藩政を一手に引き受けてあらゆる出来事を処理しなければなりませんでした。

その1年前。王政復古のもと徳川慶喜によって突然の大政奉還がなされ、錦の御旗を掲げた長州・薩摩藩士による官軍、つまり新政府軍が幕府側の各藩に対してすさまじい勢いで勢力を広げておりました。この頃の日本全国の藩主・領主は揺れ動く時代の中で奔走し、徳川幕府を擁護するかそれとも新政府に付くべきなのかと暗中模索の日々でございました。山形藩も新政府の役人から官軍側について兵を固めること、および兵を出すことを強要されてそれに従うこととなりました。山形藩は天童城を本拠にいたしまして、幕府側に付いた庄内藩と対立し、にらみ合うこととなったのです。その後、強豪との誉れ高い庄内藩の激しい攻撃の前に山形藩は敗れ、天童城は焼き討ちにあい、山形城下は大混乱のありさま。

と、ここで、いいところがございますが、講談では勇ましい戦いぶりを修羅場調子と申しまして、このように表現いたします。ちょっとやってみましょう。

虚と見せては実と変わり、実と見せては虚と変わる。まこと変化の早業は水に写れる月影の水のうねうね、うねるに似たり。2匹連れたる唐獅子が牡丹に狂う風情を表し、集散離合の手をくだき、おとらじ負けじと火花を散らし、六十余合と戦ったり。

東北一の強豪藩である庄内藩の様子もうかがいながら、なんとか山形藩の活路を見い出そうとする水野三郎右衛門元宣。当時の山形藩は5万石でありましたが、財政は甚だ苦しく、なんとか麦の備えもない中で官軍と庄内藩の板挟みに合い、山形藩をいかにして守るか元宣の苦労は相当なものでございました。

その年の4月、山形藩をめぐる状況が一変いたします。仙台、米沢の両藩主が呼び掛け、仙台、米沢、庄内、上山、天童、新庄、会津、越後、長岡、新発田、村上、本荘など、約30藩を超える奥羽越列藩同盟が成立。元宣はこの時、今までとはまったく反対側の幕府軍を擁護する立場を選ぶこととなったのです。しかし越後が新政府軍の兵の増強によってまもなく占領され、その後も秋田藩、新庄藩と次々と新政府の軍門に下り、8月末になると米沢藩もとうとう降伏してしまいました。白虎隊の壮絶な集団自決であまりにも有名な会津鶴ヶ城もとうとう籠城1カ月の後に万策尽きて落城。そして9月12日、水野三郎右衛門元宣は山形藩の降伏を下し、それにより山形城下は戦火から免れることとなったのです。9月27日、鶴岡城無血開城によって屈強を誇る庄内藩も降伏、東北戦争は完全に終結したのでした。

新政府に反抗して奥羽越列藩同盟に加わった藩に対する処罰がそれぞれ決められました。山形藩に対しては藩主の謹慎および戦争首謀者の名簿提出が命じられました。これに従い、戦時中の藩政、軍事を司った重臣の11名が名乗り出て責任を取ろうといたしました。水野三郎右衛門元宣は頑として「責任は自分1人にある。これにより他の者には寛大な恩典を与えてください。罪の一切、そしてその責任、元宣にはどのようなお沙汰も仰せつけください」と

の文面がしたためられておりました。

奥羽諸藩の降伏とともに明治新政府の1年目は終わり、明けて明治2年、新政府が元宣に下した沙汰とは。反逆首謀者、水野三郎右衛門元宣、今般刎首、すなわち打ち首と決定したのです。その処置は藩において執行するようというものでございました。この決定が東京からの伝達役によって山形藩にもたらされたのが5月19日。ただちに山形藩の重臣たちと話し合いが持たれたものの、その協議は一向に捗らず。それはそうでしょう。情が深くて温和で誰からも敬愛されたご家老の首に刃を当てるなど、誰もできようはずがなかったのです。夜を徹して行われた話し合いはもつれにもつれ、翌20日になっても容易に決することはなく、とうとう刑を元宣に執行する役目は抽選で、首をはねる役目は東京から来た伝達役が負うと決まったのは午後3時頃と申します。

その頃、水野三郎右衛門元宣はといえば、江戸から使者が到着したことを知り、藩のために自分が命を落とすことは致し方ないことと覚悟を決め、19日の夜は父母妻子に一生の別れと思えば普段は酒を嗜まないものの、父母らと共に杯を傾けてあとのことをよくわかるように言い聞かせて、夜が更けてから就寝いたしました。

明けて明治2年5月20日、元宣は朝早く起床し、いつものように口を漱ぎ、顔を洗い、身体を清めて両親に挨拶をし、快く朝食を終えました。そして父母らいつものように変わりなく談話をしながら藩からの呼び出しを待ちました。正午近くになりましたが、まだ何らの沙汰はございません。元宣は昼食を取り、茶を飲みます。そして家族が涙をするのに反していつものように父上と話をし、一子亀太郎に新調の紋付を着せます。「亀太郎、父は遠いところへ旅立たねばならない。そしてもう二度と会えない。こうしてお前を抱くことももう二度とできぬのだ。お前が大きくなることを見られないのは何よりもつらいことだな」。あどけない笑顔を見せる亀太郎を抱いて庭に降り、頼りしながら池の周りをそぞろ歩きしていたと申します。

そして午後3時過ぎ、ついに処分が伝えられたのでした。家中がただならぬ気配に押し包まれ、祖母や妹や弟、下男下女らが涙にくれる中、特に御年2歳の亀太郎を抱いた元宣の妻が畳に泣き伏す姿はあまりに悲しい、痛々しいものでした。「あなたさまが一体何をしたというのでしょうか。藩のために骨身を削り心底尽くしてきたことが、あなたさまの命を奪うことになろうとは。なんとむごい、こんな無慈悲なことがありますか」。しかし父元永、母フミコは少しも騒ぐ様子はなく、真っ赤な目からは涙をぽろぽろ流しながらも「侍の家に生まれて泣くなどあまりに女々しいことである。侍が藩のために命を落とすことは名誉なことである。泣くにはあたらないぞ」ときっぱりたしなめたと申します。

三郎右衛門元宣は涙に暮れる皆を背に、静かに門を出でて刑場と定められた七日町長源寺に護送されました。そしてその日の夕刻、首をはねられたのでございます。

刑の執行が終わったのは申の刻の午後5時。刑を言い渡されてからわずか、わずか2時間後の出来事でございました。幕末から明治維新にかけて、激動の山形藩。主席家老、誰あろう水野三郎右衛門元宣。たった27歳の若き侍でありました。

処刑当日の城下は「昨日江戸から使者が参ったはずだが、ご家老への沙汰はどうなっている！」と皆いらだっておりましたが、間近になって切腹ではなく打ち首と知り、血気はやる藩士たちの間に不穏な空気が漂いました。「ふざるな。なぜ打ち首なのだ。許せん！」「武士として名誉ある死を選べず斬首などと、ご家老は罪人ではないぞ！」そのため、元宣を丁重に護送する前後には約80人が兵配備され、厳しい警護を敷いたそうです。

旧暦の5月20日といえば北国ももう夏の日差し。特にこの日は蒸し暑い日で、赤黒い雲が低く垂れ込めておりました。元宣が刑場の長源寺へ向かう道すがら、人々は店を休み、家業を休んで、「ご家老様は戦から山形を守ったお方だ。そんな立派な方が亡くなるんじゃ世も末だ」「2歳の坊ちゃんがおいでなさんと聞いたよ。2歳といたらお前さん、かわいい盛りじゃないか。あんまりな仕打ちだよ。子どもたちも外で遊ぶことを禁じられ、「おっかあ、どうして外へ出ちゃいけないのさ」「お城のお殿様が通られるんだよ。さあさあ、膝をついて静かにお見送りしようね」。それぞれ家の中で涙に暮れて元宣の行列を見送ったと申します。

亡きがらは長源寺住職がもらい受けて、ひそかに「自性院無外宗本居士」と法名を授けました。ただの丸い小石が乗っただけの土饅頭の墓。戦争首謀者として首をはねられた元宣の墓に、表立ってお参りをすることも許されない、暗い重たい空気が漂い、人々は日が暮れてからそっとひそやかに墓参りしたと伝わります。

明治23年。帝国憲法発布による大赦令によって、元宣の戦争首謀者の罪は晴れて取り消されることとなりました。水野三郎右衛門元宣より、21年後の出来事でございました。

山形市桜町にあります豊烈神社。参道をくぐってすぐ右側に、山形を戦火から守り抜いた戊辰戦争の大偉人、水野三郎右衛門元宣公の凛々しい立ち姿が。皆さま、どうぞどうぞお立ちよりくださいませ、ひと時そのたたずまいに思いをはせていただけたらとお願いを申し上げます、私の「山形の幕末 若武者水野三郎右衛門の物語」

終わりといたします。ご清聴ありがとうございました。リモートの皆さまもまた皆さまとリアルでお目にかかれることを楽しみにしております。講談師おさゆ、どうぞ今後ともごひいきに、よろしくお願い申し上げます。



本日出席 (1 / 24)	会員総数	出席会員数
	100名	53名